



有珠山噴火から四半世紀

考え続ける自主防災の未来

profile

昭和21年6月10日生まれ。えりも町出身。
泉在住。趣味は読書。

Spotlight

スポットライト



泉自治会会長

山浦 和好 さん

2000年3月31日の昼ごろ。仕事のため有珠山近くにいた山浦さんは周囲の空気に違和感を覚えていました。風はそよとも吹かず、普段は見かける鳥たちの姿も無い。「不気味なほど静かだ。息苦しさを感じたほどでした」。静寂が破られたのは勤め先の詰め所に戻った1時間後。見慣れた有珠山が噴煙を吹き上げました。

避難。食事の乏しさや避難所を転々としなければならなかった不安を知るにつれ、危機感が沸き上がりました。13年に泉自治会の会長に就いてからは防災体制の強化に取り組み、16年に自主防災組織を発足させました。

活動を重ねる一方で「しつこいくらいやっていかな」と忘れられてしまします」と住民の防災意識には今も課題を感じています。また、2000年噴火の時に比べると避難所に求められる役割も多様化。当時はペットと避難できなかったため、車中泊を強いられた知人もいました。乳幼児を抱える親が安心して過ごせる場所づくりなども必要とされ、運営には大勢の協力が不可欠です。

「一口に自主防災と言っても奥が深過ぎます。組織の見直しもこれで良いということはありません。一緒に考え、動いてくれる人が一人でも増えたら」と強く願う山浦さん。噴火から四半世紀を経た今も地域防災のあるべき姿を探し続けています。

東奔西走



町の地域通貨「とうやコイン」の利用が始まりました。問合せも多く、関心の高さを日々感じています。コインだけではなく、情報発信でも町のデジタル対応が進んでいます。皆さんもぜひご利用ください。(D.Y)

先月、宮崎県や大分県などで今年初の真夏日(最高気温30度以上)を観測したというニュースがありました。洞爺湖町はまだまだ肌寒い日が続いていたので、北海道と九州でそんなに差があるのかと驚き、印象的でした。(Y.A)

町公式LINEを友だち追加！

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます！

